

資料②「本県 PR 大きな貢献」（横手市出身 故矢口さん）

私の地元が舞台となっている「釣りキチ三平」が令和の現在でも注目され、地域が盛り上がっているということを知りとても嬉しかった。矢口高雄さんの「漫画を芸術として認めて欲しい」という願いは叶えられていると思った。漫画は日本を代表する文化の一つで、国境を越えて老若男女問わず人気のあるものであり、県外だけでなく国外の観光客の集客も見込めるだろう。また、SNS を活用して多くの若者の目にとまれば、この漫画美術館をきっかけに横手市に興味を持つ人が増え、そこから地域のイベントや祭りなどの運営に参加したいとする関係人口の創出・拡大も狙えると思った。私も地元住民として、機会があればこちらのまんが美術館の PR 活動に積極的に貢献し、この素晴らしい文化を次の世代へと残していきたい。

私がこの資料を選んだ理由は、つい最近年配の方との会話で「秋田といえば釣りキチ三平が有名だね」と振られ、私はそこで「はい、そうですね」としか応答できず、芸術を含め秋田が持つ様々な資産に関して自身が無知であることを痛感し、非常にタイムリーな話題であったからです。

「釣りキチ三平」を読んだことがない人や知らない人は、特に若年層に多いのではないのでしょうか。若年層の秋田の芸術資産への理解を深め、彼・彼女らがそれを次の世代や県外の方々に伝えていくという循環が、矢口さんの芸術に対する思いを継承し実現していくためには必要ではないのでしょうか。「釣りキチ三平」に関しては、漫画や美術館だけでなく、アニメや映画など様々な形で親しむことができます。「釣りキチ三平」を含め秋田の芸術資産を知る大人たちが、様々な手段を用いて子供たちに芸術に触れ、興味を持ってもらうきっかけを提供することが求められていると感じています。

本文にあるように「漫画を低俗だとする偏見も根強い」時代があったが、現在では漫画は日本文化の 1 つとされ日本国内だけではなく海外でも人気が高まっている。「釣りキチ三平」のキャラクターが本県の特産品や施設の PR に起用されることで秋田の特産品や情報に気付ききっかけになると考える。海外からの観光客が増える中、秋田に来たことが無くても秋田のことを知り、興味を抱いて足を運ぶことにもなるだろう。それは、都会や海外から日本の地方への移住が流行している現状を踏まえると、秋田で暮らしていきたいと思う人の増加につながると考える。県民では気付かないような魅力を発見・発信してもらうことで、少子高齢化が著しい秋田県の人口増加に対しても大きな影響を与えようとする。

この記事を読んで、私は、同じ高校の後輩として矢口高雄氏をととても誇りに思った。なぜなら、矢口氏は自身の利益以上に地元のためを考えて、県内の PR に大きく貢献して下さったからである。その一つに増田まんが美術館が挙げられる。この増田まんが美術館

は、50 周年が経った今でも多くの人が足を運んでいる。これは、様々な漫画の原画が収蔵されているということもあると思うが、やはり矢口氏が描く「釣りキチ三平」などのキャラクターや作画力を一目見たいからというのが一番大きいと思う。尚、最近では、チャック・ディクソン氏が「釣りキチ三平」を称賛したことによって、話題を集めている。これによって、海外からの観光客の獲得も期待でき、今後も矢口氏は、地元の発展に大きく貢献されていくと思う。